























業種別景況予測

2023年1月～3月

							
		特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振	きわめて不振
部 会	10～12月 (実績)	1～3月 (見通し)	概 況				
寝 装 リ ピ ン グ			「仕入価格・外注加工賃の高騰分を、市場が減ることを覚悟で転嫁している(紡毛糸製造業)」「円安、物価上昇に伴い、寝具を含めた日常品の需要は低迷(寝具製造業)」など、コストアップによる利益減少のコメントが寄せられた。				
織 維 フ ャ ッ シ ョ ン			「為替も130円前後で落ち着いてほしい(衣料卸売業)」「最低賃金は毎年上がっているが、加工賃は上げにくい状況である(ミシン加工業)」「ネットによる販売が伸びている(衣料製造販売)」とのコメントが寄せられた。				
工 業			「自動車の生産状況により生産量は減少。一部顧客の国内回帰動向から期待できる製品の増産に注力(工業用薬剤等製造業)」「自動車メーカーの生産調整が続いている。建機・産機も調整に入る予想(鉄鋼業)」「対応業者数減による受注量の削減が増えている(機械製造業)」などのコメントが寄せられた。				
建 設			「引き続き人手不足である。新築・リフォームともに工事が激減。(塗装工事業)」「材料は引き続き上昇傾向である。賃金は上昇圧力が強い(総合工事業)」「仕入価格は上昇しているが、売単価は殆ど上昇なし(建築材料卸売業)」「物不足は改善されつつあるが、職人(特に若手)不足が顕著になっている(建築業)」など、先行き不安とのコメントが多く寄せられた。				
運 輸 倉 庫			「コロナ以降、地場産業の毛布販売の低下で、運賃収入が激減(運送業)」「下期以降荷動きも低調。在庫の増加が顕著(倉庫業)」「中国の生産状況の悪化、円安による各値上げ等が収益を悪くさせている(倉庫業)」「輸出取扱量が減少傾向にある。燃料が高止まりしているため、運賃の値上げ交渉を実施(物流事業)」とのコメントが寄せられた。				
金 融 理 財			「経費削減などの理由により大口契約の契約期間満了、解約が続く(士業)」「法令改正のスピードが早く、常に勉強が必要(士業)」「労働安全衛生コンサルタントについては、不変の状態にある(経営コンサル業)」などのコメントが寄せられた。				
一 般 商 業			「仕入れ価格の値上げが激しく頭が痛い(精肉小売業)」「大変な状況であるが、暮らしのクーポンやミニレシート大作戦等のおかげで少し助かっている(菓子製造小売業)」「アクセサリ業界やバッグ業界などは、原材料が上がっているため卸価格の単価の上乗せが顕著になっている(時計小売店)などのコメントが寄せられた。				
サービ 商 業			「再びコロナが増えてきたこともあり、利用のキャンセルが増えてきた(介護業)」「売上があっても収益が無くなってきている(飲食業)」「再び客足が減少。コロナの影響が続いている(飲食業)」「少しずつではあるが、お客様が戻りつつある(スポーツクラブ業)」などのコメントが寄せられた。				

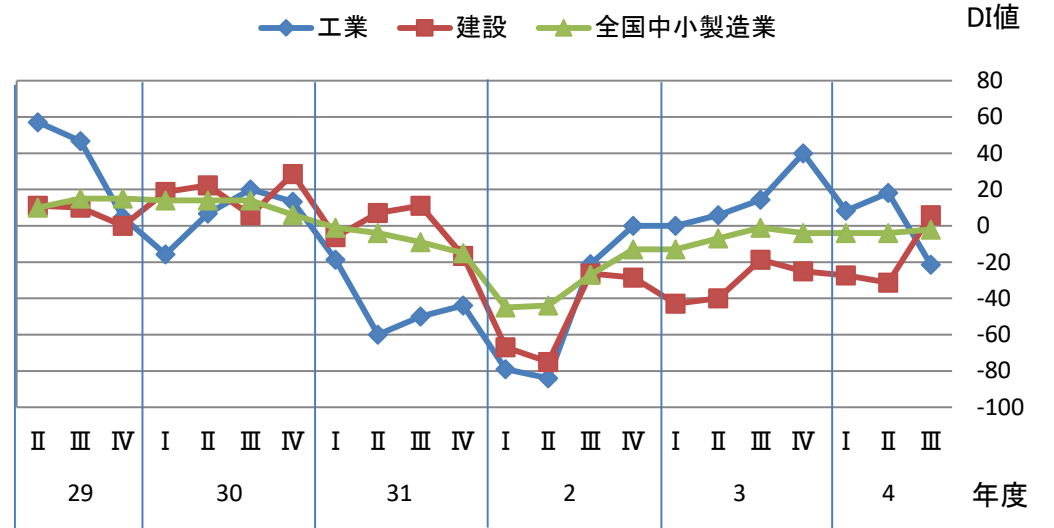
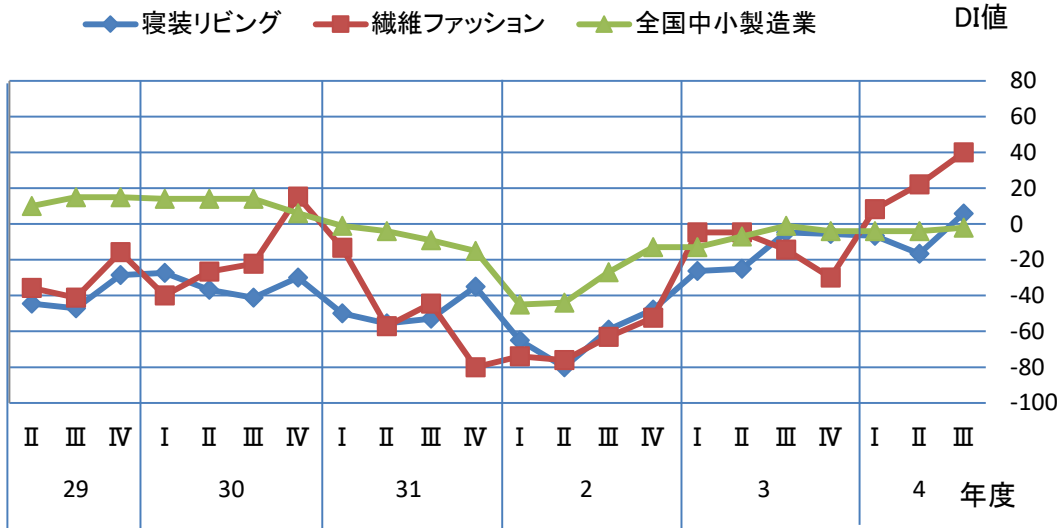
(調査概要) ●調査実施 令和5年1月 ●調査対象企業 283社 ●回答数 131社

管内企業をとりまく諸条件を考慮し、各企業が「景況」をどのように予測しているのかについて、継続的に調査し発表しています。調査は、四半期毎にとらえており、通常のシーズンの動向が理解できるようにまとめました。この「景況予測」が「結果」と比べてどうであったか、また、各々の業界対策・企業経営の一つとして、参考にいただければ幸いです。

～調査機関～ 泉大津市田中町10番7号 泉大津商工会議所 業務課 TEL 0725-23-1111

前年同期と比較

泉大津の全産業のDI値は寝装リビング・繊維ファッション業・建設の上昇により少し回復した。業種別に見ると、寝装リビング・繊維ファッション・建設・サービス商業については改善、工業・運輸倉庫についてはやや悪化、金融理財・一般商業は横ばいと同業種内でも差異がみられる。

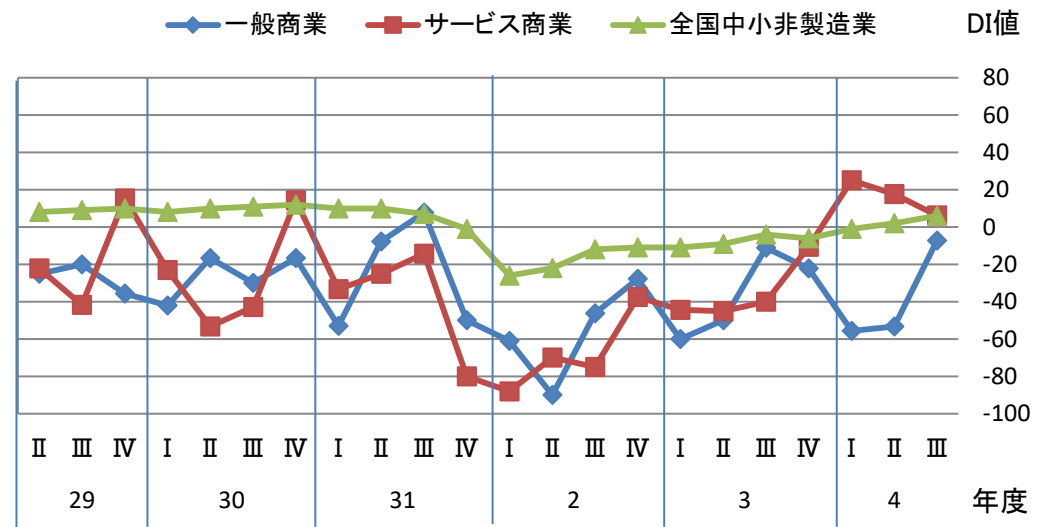
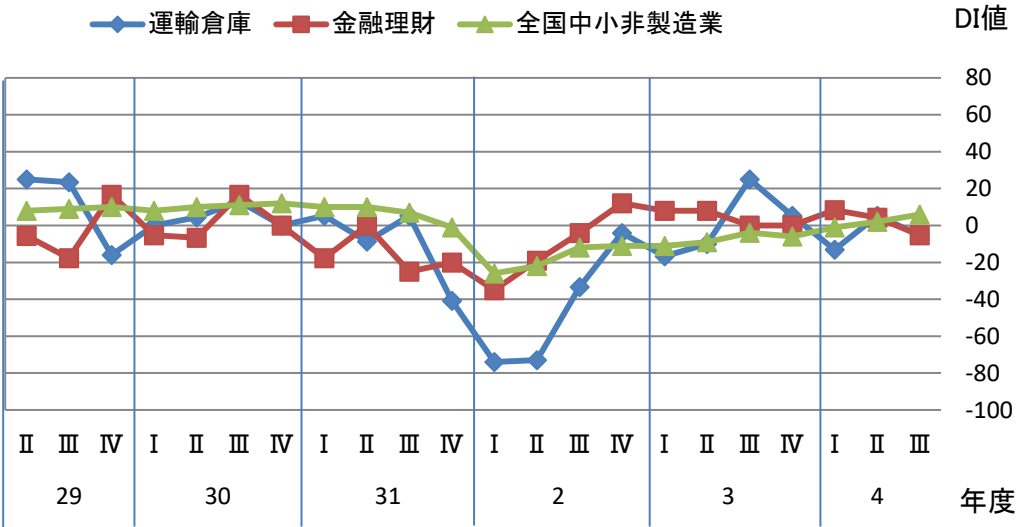


前年同期と比較

リビング・ファッションともに、前年同期に比べ売上高は上昇傾向にあるが、リビングは原料仕入価格の高騰、為替円安の影響で、収益に結びついていない様子。

前年同期と比較

工業・建設にともに仕入価格の上昇、人手不足の課題がある中、建設は、売上にやや改善が見られるが状況は厳しい。工業においては、売上・収益ともに減少傾向にある。



前年同期と比較

金融理財は、売上・収益率は横ばい傾向にある。運輸倉庫は、売上がやや改善しているが原油価格の高騰が収益を圧迫している。

前年同期と比較

一般商業は、売上・収益は依然減少傾向にあるが下げ止まりを見せた。サービス商業は、売上が上昇傾向にあるが、原材料の仕入価格高騰により、収益は伸び悩む。

※DI値: 売上状況の回答 (増加-減少=DI値) ※H30.7 ゲリラ豪雨 ※H30.9 台風21号 ※R2.3 新型コロナウイルス感染症拡大
 I = 第一四半期(4~6月) II = 第二四半期(7~9月) III = 第三四半期(10~12月) IV = 第四四半期(翌年1~3月)

⑨ 全国中小製造業・非製造業は前期と比較しています。